

第2回宗像市立地適正化計画策定委員会議事録

平成28年3月3日(木) 10:00~11:30

宗像市役所2階 202会議室

出席者

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
黒瀬 重幸	出	日高 圭一郎	出	辰巳 浩	出
小林 裕美	出	中島 徹也	出	田中 隆一	欠
森 眞一	出	今川 泰志	出	宮園 寛治	欠
國廣 由佳	出	赤星 健太郎	欠	岩永 和久	欠

印は会長、 印は副会長

1. 開会あいさつ

黒瀬会長から挨拶

2. 前回の協議内容と今回の協議内容について

事務局より説明

3. 審議事項

議題1：立地の適正化に関する基本的な方針(第3章)

質疑・意見

立地適正化計画における誘導の考え方(都市構造と公共交通の方向性)で「宗像市が目指す公共交通の方向性」の図については、市街化調整区域に入ると民間バスのサービス水準が減少するのはわかるが、「ふれあいバス」、「コミュニティバス」のサービス水準より民間バスのほうが低くなるのではないかと。

- ・ご指摘の通りだと考えるので、内部で議論を行い、図面の修正をする。

立地適正化計画における誘導の考え方(都市構造と公共交通の方向性)で「宗像市が目指す公共交通の方向性」の図については、サービス水準という表現がわかりにくいので、市民目線からでもわかりやすいように言葉を足すべきではないかと。

- ・内部で議論を行い、図面の修正をする。

立地適正化計画におけるイメージ図の郊外住宅団地の中心に病院のイラストが描いてあるが、これを見ると、高齢者が中心拠点に移転しなければならないように見える。高齢者の中には移転が困難な方もいると考えられるので、郊外住宅団地の病院のイラストを地域包括支援センター等の高齢者向けの施設に変更した方がいいのではないかと。

- ・高齢者が必ずしも移動しなければならないというわけではないが、居住のニーズに合

った住宅のイメージを示したという点では現在の図であっているという考えである。しかし、ご指摘の通り、郊外住宅団地に包括支援センターを配置するようなイラストの検討を行う。

立地適正化計画におけるイメージの実現については、住民の意識を変える必要がある。

市街化調整区域の交通手段は複数パターンを用意して、市民のニーズに合ったサービスを行うべきではないか。

- ・ お伺いした意見は立地適正化計画策定後の具体的な内容に関しての意見であるので、計画策定後のまちづくりに活かしていく。

立地適正化計画における誘導の考え方のイラストは2次元で表現しているのだからわかりにくい、人口密度の増減がわかるように立体的なイラストにするなど、3次元の表現を用いるべきではないか。

- ・ ご指摘の通りイラストの修正を行う。

人口減少する破線が均等に縮小しているが、公共交通軸沿いは人口集約の方向となるのではないか。

- ・ ご指摘の通りイラストの修正を行う。

議題2：目指すべき都市の骨格構造(第4章)

質疑・意見

拠点間の階層を整理しておく、将来の施設や交通計画に参考になると考えられる。

神湊ターミナルが特化施設地区に入っていないが、都市計画区域外の大島と連絡するターミナルであるためか。

- ・ 世界遺産登録に関連して大島は重要なポイントであるため、神湊ターミナルを特化施設地区に入れることについて内部で協議を行い、検討を行う。

居住誘導区域のイメージについては、逆線引きを行うのか。それとも市街化区域が普通にあって、拠点や軸線上の歩いて暮らせる範囲で居住誘導区域を設定するのか。

- ・ 災害危険区域や山林部など居住誘導区域から外すべき区域(1段階)と居住誘導区域から外れる市街化区域の縁辺部などの区域(2段階) 駅周辺や公共交通軸沿線などの居住誘導区域(3段階)の3段階で考えている。

議題3：立地適正化計画策定方針・体制・スケジュールについて

次回開催予定は夏頃を考えている。

少し期間が空いているというイメージかもしれないが、事前に国土交通省などの関係機関との協議を行い、次回の策定委員会で誘導区域の素案をお示しできればと考えている。